

## 第 71 回町田市環境審議会議事要旨

【日時】2018年7月10日（火）18：30-20：50

【場所】町田市庁舎2階 会議室2-3、4

### 【出席者】

委員：川瀬委員（会長）、堂前委員（職務代理）、根本委員、鳴海委員、高田委員、宮下委員、大久保委員、大庭委員、渋谷委員、坂本委員、大平委員、藤田委員、宿野部委員、石田委員

事務局：環境資源部 水島、環境政策課 塩澤、川瀬、土志田、坂牧、香山、井上  
環境・自然共生課 大久保、菱谷、浅野、粕谷

傍聴：0名

### 【報告】

- 1 2016年度進捗状況の点検評価への対応について

### 【議題】

- 1 「第二次町田市環境マスタープラン」2017年度進捗状況について
- 2 「町田生きもの共生プラン」2017年度進捗状況について
- 3 その他

### 【資料】

資料 1：2016年度進捗状況の点検評価への対応

資料 2：2018年度環境審議会スケジュール

資料 3：「第二次町田市環境マスタープラン」2017年度進捗報告書

資料 4：「町田生きもの共生プラン - 生物多様性はじめの一步」2017年度進捗報告書

参考資料 1：2018年度環境に関する市民アンケート調査結果

参考資料 2：「アクションプラン ～第二次町田市環境マスタープラン推進計画～」環境施策の進捗状況

参考資料 3：後期アクションプラン重点事業 2018年度目標一覧

### 【報告】

- 1.2016年度進捗状況の点検評価への対応について  
（事務局説明）

【議題】

1. 「第二次町田市環境マスタープラン」2017年度進捗状況について  
(事務局説明)

基本目標 1

大平委員：資料3の3頁一番下にあるその他の施策は基本目標とどういう関係か。

事務局：5つの基本目標それぞれに達成目標が3つある。その達成目標の実現のために、重点事業があり、その他の施策があるという図式になっている。  
また資料3の3頁、その他の施策①～③はどの達成目標に関連しているかを示している。

大平委員：基本目標1には達成目標、重点事業、その他にも施策があるとわかった。

高田委員：都内における再生可能エネルギーの電力利用割合について、2021年度の目標が30%となっているが、現状2016年度は12.1%である。達成できるのか。また、具体的な施策や対策として、公共的な建物への太陽光パネル、太陽光発電の設置を進めているとか、新築とか改築時に太陽光発電を導入すると補助金を出す等、何か具体的な施策があるなら教えていただきたい。

事務局：再生可能エネルギーの補助金については2016年度まで行っていたが、2017年度以降は行っていない。再生可能エネルギーに関する普及啓発はホームページやイベント等で告知を行っている。

大平委員：再生可能エネルギーを促進したいということだが、市民に対してはどのような説明をしているのか。市民にとって経済的に有利かどうか、さらにLCA（ライフサイクルアセスメント）的に良いのかどうか。特にLCA的なものを市民に説明できるようなデータはあるのか。

事務局：再生可能エネルギーとしては太陽光発電、太陽光パネルを使った再生可能エネルギー、エネファームという機器があるという紹介をしている。市としては補助金ではなく、そういった形の普及啓発を行っている。国や都ではエネファーム等の補助金を行っているので、それらの紹介も行っている。

鳴海委員：重点事業とその他の施策は参考資料2に載っているということによいか。

事務局：そのとおりである。

鳴海委員：例えば基本目標1に7つの重点事業があるが、先ほど説明のあった資料3の3頁、重点事業の番号1の年度目標進捗は○となっていて、参考資料2にある基本目標1の同じ重点事業の進捗度は★1となっている。これだと同じ重点事業の進捗度の関係性がよくわからないので、もう少し説明がほしい。

事務局：まず資料3の重点事業については2017年度に設定した目標に対する状況の評価である。それに対して参考資料2に記載のある重点事業は、後期アクションプランが終了するまでの最終的な目標値に対する進捗度になっている。

鳴海委員：先ほどの重点事業に関しては2021年度の最終目標に対してはまだまだという評価だが、2017年度の年度目標は達成しているという認識で良いか。

事務局：そのとおりである。

川瀬会長：年度目標に対しての進捗度と、最終年度に対しての進捗度の違いということだが、他に何かご質問はあるか。

堂前委員：資料 3、その他の施策の取り組み結果(取り組み数)の◎○△×のところだが、参考資料 2 にあるその他の施策の評価達成目標に①②などいくつかの達成目標が重複している。一方、資料 3、3 頁のその他の施策の表の関連達成目標では①、②、③がそれぞれカウントされている。施策の①②が評価達成目標になっている施策というのは表に落とし込むときにどういうふうになっているのか。ダブルカウントしているのか、どちらかに入れているのか。

事務局：参考資料の 2、11 頁を見ていただきたい。「(2) 持続可能なエネルギー利用への転換を図ります」を例にとるが、最初の施策が①②の達成目標に関連する施策になり、このような施策の場合は資料の 3 のほうでは①で 1 回、②で 1 回と重複してカウントしている。

堂前委員：○や◎の合計は施策の合計数より多いという認識でよいか。

事務局：そのとおりである。

## 基本目標 2

大平委員：資料 3、4 頁①の説明部分にある緑地保全基金等は誰に支給しているのか。

事務局：市役所の中に設けている制度で、緑地を購入するために積み立てている。市が緑地を買う際にこの基金を崩して買うというものである。

## 基本目標 3

宿野部委員：資料 3、6 頁③の資源化率は基準年が約 27%で、2017 年度の結果は約 26%であが、2020 年度の達成目標は倍以上の 54%となっている。何をもって 54%にできるのか、何を根拠にこの目標設定にしたのか教えていただきたい。

事務局：資源化率は現在 25%前後であり、資源の量とすると約 27,000 トンが資源という状況である。達成目標の 54%については、現在、生ごみをバイオガス化していくという施設を作っている。完成すると約 20,000 トンの生ごみを資源化することができ、その量をカウントしていくので量が倍になるという考え方である。

大平委員：容器包装プラスチックのリサイクルについて、町田市では容器包装リサイクル法に基づいたやり方か、それとも町田市独自の方法で行っているのか。

事務局：容器包装リサイクル法に基づいて行っている。具体的には容器包装プラスチックを分別したものを収集し、中間処理をして、梱包を行い容器包装のリサイクル協会で資源化をするというルートになっている。

高田委員：3Rの初めのRについて、発生抑制・減量について具体的な施策としてごみ減量への働きかけとか具体的なものは何かあるか。

事務局：発生抑制・減量についてごみ減量アクションプランでは約 13,700 トン減らそうという目標を設定しており、生ごみ、紙類、事業系のごみ、それから啓発活動が大きな 4 つの柱となっている。その中で生ごみは、生ごみ処理機の普及、段ボールコンポストの普及を、事業系のごみは事業所に出向いて減量の指導を行っている。紙類については雑がみ袋という啓発の袋を作って、これまで資源化をしていない方にこの袋を使用して分別していただく取り組みを行っている。

大平委員：ピンクの容器包装プラスチック専用袋は 20ℓで 160 円だと思うが、黄色の燃やせるごみ袋は 10ℓで 160 円と倍の値段となっている。これはどういう理屈なのか。

事務局：町田市にはピンク、黄色の他に緑の燃やせないごみ袋もあるが、黄色と緑の 20ℓごみ袋は 320 円である。その中で資源化していただくということでピンクの袋のみを半額にしたという経緯である。値段が倍になっているというよりは、分別にご協力いただくということでピンクの袋を半額にしたという考え方である。

根本委員：飲食店や小売店、スーパー等の事業所に対してプラスチックに入れて売らないでください、ストローを使わないでください等、プラスチックごみの発生抑制的な啓発はしているのか。

事務局：まちだエコ宣言という事業者の宣言があり、レジ袋廃止等を宣言していただくことを積極的にしている。事業所への立ち入りについて、プラスチックごみは本来産業廃棄物になるが、一般廃棄物として町田市の清掃工場に入ってきてしまう現状があり、そういった分別を徹底していただくのは事業所への立ち入りの時をお願いしている。

根本委員：例えば果物を買うときにグレープフルーツがプラスチックのケースに入って売られていることがあるが、プラスチックケースを使わずにそのまま売るといった指導等はしているか。

事務局：そういったことはしていない。

鳴海委員：資料 3、6 頁の②一人当たりのごみの量が 2017 年度は 770 g になっていて、市民向けに環境白書の活動報告のような書類もあると思うが、なぜこのような数字になったのか因果関係がここでは説明されていないので、市の施策がどのように効いたのか、その結果どうなったかなど詳しい説明が必要だと思う。

高田委員：マイボトルの普及について、ペットボトルの回収、収集と運搬だけでも結構なコストを市が負担していると思うが、コストはどれくらいかかっているか。またペットボトルを減らすためにこういった施策を行っているのか説明をお願いしたい。

事務局：委託料（コスト）について、この場では資料がないため、改めて回答する。ペットボトルを減らす取り組みについては、ごみの発生抑制としてマイボトル OK 店を募集している。現在市内に 30 店以上ある。またマイボトル OK 店の冊子を作って市民の皆さんに PR する取り組みも積極的に行っている。

#### 基本目標 4

- 大平委員：資料 3、8 頁②の説明部分に藻の光合成の影響でアルカリ側に超過しているところがあるが、これはいいことなのか。
- 事務局：できれば中性の位置にあることが良い。環境基準が設けられており、それが pH でいうとアルカリ性側は 8.5 が上限になっている。その基準値は超えてしまっているが、魚が死んでしまったりということは確認されていない。
- 大平委員：悪化しているという意味か。
- 高田委員：浅い都市河川だと夏場に藻の光合成が活発になり、このような現象がよく起きる。しかし、これで何か生態系に悪影響を及ぼすわけではない。ここでは栄養面のデータが示されていないのでなんとも言えないが、元となる栄養素が多すぎる時や、日当たりが良い時に多摩川などでもよくみられる現象である。
- 川瀬会長：あくまで環境基準との関係で、夏場にはこういう現象がよく発生していると補足していただいた。他にご意見、ご質問はあるか。
- 宿野部委員：居住地の周辺環境について、私個人は快適で満足しているが、私はなるべく自家用車は乗らず、公共のバスを使ったり、自転車だったり、歩いたりしている。歩くことと自転車の問題はリンクしていて、二人乗りはそこまで危ないと感じないが、若いママさんなど歩道をすごい勢いで走っていて危ない時がある。自転車は本来車道を走るとか、左側を走るとかだと思うが、町田警察署と話をした時も注意喚起等アナウンスがあまりできていないと感じた。実際に怪我人も出ているし、市役所も警察とうまく連携できないか。
- 事務局：市の中でも生活安全の部署があり、警察と連携して自転車講習会等している。関係部署にはご意見として伝える。参考資料 2 の 24 頁に記載があるので、ご参照いただきたい。
- 川瀬会長：参考資料 2 の 24 頁の所に、学校や地域での自転車や二輪車のマナー啓発が記載されている。
- 根本委員：玉川学園にいた時は航空機騒音に悩んでいたが、米軍機等が厚木基地から岩国基地へ移転したことで被害の声は減っているか。
- 事務局：2017 年度の後半に米軍機が移転し、苦情の件数は激減している。詳細については市の HP で公表している。
- 大平委員：自転車について、成瀬に道路を青く塗った自転車優先のような道があるが、車が路上駐車していて使えない。道路が狭いのもあるが、町田市全体に自転車専用の道路ができると安全性の面でも良いのかなと思う。

#### 基本目標 5

(意見等なし)

川瀬会長：全体を通して何か質問はあるか。

大久保委員：全体に関わることで、施策の結果の目標と市民の皆さんのアンケートの感じ方の目標と目標がふたつあるのかなと思う。目標設定の時にこの使い分けをどうしたのか説明をいただきたい。

事務局：環境マスタープランは10年の計画であり、達成目標は基本的に変えないが、後期のアクションプランを作るときに見合わないものは見直した。この達成目標の実現をめざすために、施策が設定されている。アンケートは実際に施策を打った結果がどうなっているかという項目を指標に設定している。

大久保委員：アクションプランが作りにくいから市民の感じ方で評価をするという考え方ではないのか。アクションプランをうった結果として、今言ったアンケート結果という考え方なのか、むしろアクションプランとしてはなかなか何をやっていいのかわからないので、市民の皆さんの感じ方を目標に反映しているのか、ここら辺を整理してあげたほうがいいのではないか。

事務局：わかりました。

川瀬会長：ご意見は評価シートに書いていただくことになるが、他に、ご意見、ご質問はあるか。

## 【議題】

### 2. 「町田生きもの共生プラン」2017年度進捗状況について

(事務局説明)

川瀬会長：すでに当初予定していた時間を過ぎているが、引き続き進めて良いか。今、担当から説明をうけたところだがなにかご意見、ご質問はあるか。

鳴海委員：生きもの共生プランについての評価は、評価シートのどこにあるか。

川瀬会長：基本目標2の部分に少し変則的ではあるが、生きもの共生プランへのご意見をご記入くださいとあるので、ここに記入をする。足りない場合は別紙を追加するなどしてよいかと思う。

高田委員：評価シートは電子ファイルで送ってもらえるか。

事務局：電子ファイルでお送りする。

根本委員：イベント、ワークショップ、展示に対する参加者の感想やフィードバックがあるか。また町田市全体の関心が高まっていると思うが、こういうフィードバックが勉強になった等あれば教えていただきたい。

事務局：展示は見てもらうだけなので声を聞く機会は少ないが、時間を区切って場を設ける場合にはアンケートのようなものを毎回とっている。対象が子どもの場合はアンケートではなくその場で感想を聞くなどしているが、楽しかったという声がほとんどのイベントで聞かれる。

根本委員：他にどんな声があったか具体的に教えていただきたい。

事務局：例えば伐採木のえんぴつのワークショップでは、この木の名前はなんだろうと質問が出てきたり、親子で自然に触れ合えて今日は楽しかった、かわいいえ

んぴつができた等の声があった。

鳴海委員：資料 4、6 頁に評価指標の変動があつて、例えば 2017 年度に関心のある人の割合が増えているが、この変動とその時々の方策の因果関係がわかれば良いと感じた。因果関係がある程度わかれば、将来的にあがっていくのか、たまたまの変動なのか等、ある程度予測ができると思うがどうか。また方策の効果が結果に出ていると感じているか。

事務局：年度の終わりに、まちだ生きもの探しマップという普及啓発資料を発行して、新聞等にも取り上げられたので効果はあつたと思う。しかし数字が急に上がったことに直結しているかどうかまでは分析できていない。

鳴海委員：なかなか難しいと思うが、要因分析は大事だと思う。

宿野部委員：つばめステッカーを持っていて、つばめに会いたいと思っているが、どんなところにいけば会えるか。

事務局：インターネットの利用環境があれば、町田市のホームページにつばめの巣探し調査の結果を載せているのでご覧いただきたい。具体的にここというところまで細かくは載せられていないが、この 1 キロ四方の中に巣がいくつあつたというのを載せているので、よろしければそのあたりを探していただければと思う。

## 全体

大平委員：環境マスタープランにしても、生きもの共生プランにしても、ものすごい仕事量だと思うがコストはどれくらいかかっているか。またこれだけのことをやるにはコンサルを雇っていると思うが、コンサルを雇う手続きみたいなものもホームページに載せているか。

川瀬会長：生きもの共生プランだけではなくて環境マスタープランについても両方ということである。普通は策定の時にはコンサルを雇うと思うが進捗のほうはどうか。

事務局：策定の時にはコンサルに支援の委託をしているが、それ以外では講習会やイベントを行う際に単発で専門の先生に来ていただき、講師謝礼を支払う程度である。コストについては全体の人件費であるとか、この事業をやっていくらかかっているというところまでは出していない。

川瀬会長：フォーラムをするときには講師をお願いするということですね。他に全体を通して何かご意見・ご質問はあるか。

渋谷委員：プラスチックごみを回収している地域は限られていると思うが、進み具合を教えてください。木曾周辺に住んでいてとても気になる。

事務局：施設の建設スケジュールが 2025 年と 2027 年とあり、全市展開については施設ができてからである。前倒しは検討しているが、基本的には施設を作ってから全市展開をする予定である。

高田委員：生ごみのたい肥化、バイオガス化をやっているすばらしいと思う。しかし、目標設定や数値がごみとして一括化されているので、生ごみとプラスチックと分

けて値目標を設定するほうが良いと思う。これからの参考にしてほしい。生ごみはバイオガスになったり、たい肥になったりしてうまく回っていくが、プラスチックは回らずに燃やされてしまう部分が多いので区別して数値化した方が議論も区別してできるので良いかと思う。

川瀬会長：資源になるものとごみになるものは分けて整理していったほうが良いということですね。貴重な意見ありがとうございました。